

イベントプログラム研究部会（第5回）

日 時：10月1日（月）16：00～17：30

会 場：イベント学会会議室

出席者

- [研究員] 岩崎博、梶原貞幸、澤田裕二、杉森欣夫、
橋爪紳也（部会長）、松田友治
[オブザーバー] 浅井亮一（ルネサンス）、
伊勢谷宣仁（オペラ季節館）、田中治（シミズオクト）
[事務室] 内田なお子、加藤淑子、小林政則（事務室長）



おもな議題

■「イベント学会研究大会」での発表内容の検討

[配付資料]

- ・研究発表用 PPT 案
- ・研究大会抄録（4名分）
- ・研究発表プログラム
- ・澤田研究員資料
- ・杉森研究員資料 他

おもな内容

■「イベント学会研究大会」での発表内容の検討（作業チームの報告）

- ・岩崎研究員より、研究発表の概要と抄録集について説明。研究発表時に使用する PPT 案にて発表内容案を説明。
- ・澤田研究員より、全国 47 都道府県の主要スタジアム（56 施設）を対象にした施設概要、稼働率、改修の状況等の研究結果を報告。
- ・梶原研究員より、東京都が周辺エリアの企業や施設と覚え書きを交わしている神宮外苑地区のエリア構想を紹介。

橋爪部会長コメント

- ・研究大会での中間報告は、本日の岩崎さんの PPT 案に澤田さんの研究したデータ等を盛り込んで発表したい。
- ・この研究会は、イベント学会が今後存続していくための柱となる活動と捉え、会員が研究会に参加することで新国立競技場や全国のスタジアムに関する情報を共有し、各社の事業展開に活かしていただけることを大きなミッションと考えてきた。
- ・新国立競技場の当初の計画では、屋根がある複合型の施設が考えられていたが、スタジアム内だけで実施できるイベントには制約があるため、周辺市街地や神宮外苑全体を視野に、様々なイベントを開催してスタジアムを有効活用すること。そして、そのモデルを日本各地のスタジアムに広げていくことを検討してきた。しかし、研究会を実施する度に、新国立競技場を取り巻く状況が変化し、7月に計画が白紙となり今後の状況が見えない段階にある。
- ・研究会としてのアウトプットがイベント学会内部で共有されるだけでは意味がなく、JSC はもとより関係省庁のトップやメディアに向けて然るべき代表者が提言をして、従来型発想でのスタジアムでは駄目だと発信することが大事である。

- ・この研究活動を通じて、パークマネジメントや指定管理を越えて、スタジアムと公園との新しい関係性の提言や、新しい公園の在り方までの話にまとめたい。現状の公園はイベントを開催する上で、使い勝手が良いとは言えない。都市公園法の変革も先々考えなければいけない。長期的な話にはなるが、イベント学会の存在感を示す意味でも提言をするべきだ。

[意見交換]

- ・今回の中間報告は抄録集と PPT による発表だが、今年度のまとめを小冊子のような形で発表をする際には、ぜひ英語版も添えて世界に向けて発信したい。(岩崎)
- ・文化庁でもオリパラを軸にした周辺事業の計画が進んでいる。来年度は概算要求で 30 億円を計画して、プログラム選定委員も既に決定している。音楽、演劇、パフォーマンス等の事業に関して、予算の大幅アップも計画しているので、この研究会でも予算をいただけるような活動をしてはどうか。私は個人的には、開会式後のイベントをプランニングしている。色々なところで色々な人が動き出して、自分の考えやアイデアを発表している。この研究会もスピード感を持って、まず発表することが大切だと考える。(伊勢谷)
- ・前の計画が発表された時に、社内の技術者がシミュレーションをしたが、不自由な部分も多々あったと聞いている。計画が白紙になったことで、逆に色々な提案ができると感じている。スタジアムと同スペースの公開空地の必要性、人工芝やハイブリッド方式の検討等、イベントを開催するために有効なプランを積極的に盛り込んでいただきたい。(田中)
- ・私も、全国 47 都道府県の国体やねりんぴっくを実施するようなスタジアムの調査を進めている。調べ始めると情報が莫大なものになるので、集めるデータの項目を相談して決めた方が効率的だと感じている。(杉森)
- ・前回のマネジメントチームのミーティングで、これを機に全国のスタジアムや競技場の基本データを整備してはどうかと提案があった。研究会のサブミッションとして調査を進めていくことも検討したい。(岩崎)
- ・出版社が数万円の金額で販売するような資料を、研究会の活動の中でまとめて、事業化して財源を確保することもできる。スタジアムは全国の施設を包括している中央官庁がないため、まとまったデータがないのではないかと。2024 年の滋賀国体では、彦根に陸上競技場の新設を計画している。近い将来建設されるスタジアムや候補地などのデータも網羅できると、より使いやすいものになると思う。オープンソースにして、イベント学会の会員は共有できるものになると、この研究会の意義も大きくなる。(橋爪)

★研究大会以降の予定

- ・ 11 月 12 日 (木) 11 : 00 ~ 14 : 00 ・ 11 月 28 日 (土) 15 : 00 ~ 17 : 00 (会場未定)